



東南おきたま つや姫だより

やまがた温暖化対応米づくり日本一運動 置賜地域本部 置賜農業技術普及課

穂肥は遅れず・生育診断に応じた“食味重視”の穂肥を！

つや姫の生育は、指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「やや少ない」、葉数・葉色は「並み」の状況です。

出穂期は平年より2～3日程度早まる見込みです。穂肥は遅れず、生育診断に基づく、“食味重視”の穂肥対応を行いましょう。特に、生育量に応じた中干し、穂肥対応を行い、登熟力が高く気候変動に強い「つや姫」づくりに努めましょう。

1 生育状況（置賜農業技術普及課生育診断図）

（ ）内は指標値比・差

6月30日現在		草丈（cm）	茎数（本/㎡）	葉数（枚）	葉色（SPAD）
つや姫	川西町	53.4（111）	487（97）	9.5（+0.2）	40.1（+0.1）
	指標	48.0	500	9.3	40.0

2 直ちに中干し・作溝を行いましょう！

中干しは、田面に小ヒビが入る程度を基本とします。生育量が大きい場合や葉色が濃い場合は強めの中干し、生育量が小さい場合や葉色が低下している場合は弱めの中干しとします。

中干し直後は、作溝に水がたまる程度とし、その後徐々に間断かん水を行います。

中干しの効果：無効分げつの抑制、根の健全化、受光体勢の良化⇒登熟向上

作溝の効果：間断かんがいの効率化⇒根の活力維持、地耐力の向上

作溝は、高温時の水管理“飽水管理”にも有効

生育を
制御できる
最後の
チャンス

○基肥一発肥料を施用している場合は、より適切な中干しと水管理が重要です。

○草丈が長い傾向です。高温によって、さらに長草化する可能性！倒伏に注意！！

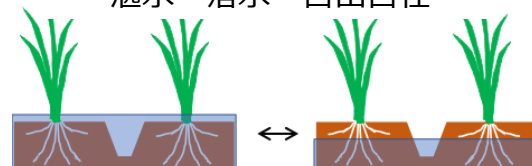
3 高温対策技術の徹底 ～令和5年の状況を繰り返さないために～

○気象庁から「長期間の高温に関する全般気象情報第1号」が発表され、6月中旬頃から記録的な高温が続いています。この状況は今後も1か月程度は続くと見込まれています。

○令和5年は一等米比率が過去最低に落ち込みましたが、落等要因は、高温に起因する白未熟粒や胴割粒と、高温条件で増殖した斑点米カメムシ類の加害（部分着色粒）でした。

○高温対策を効果的に実施するため、「中干し」や「作溝」
地域ぐるみの「出穂前の草刈り」を徹底しましょう。
登熟向上には、今の時期に発生する「うわ根」が重要です。
「うわ根」を発達させ、地温を下げる水管理を実践するためには、効率的な灌排水を促す「作溝」が鍵となるため、積極的に設置しましょう。

作溝で効率的な水管理を実現
湛水・落水 自由自在



農作業事故・熱中症に注意

◎「もうちょっと…」という無理が重大事故につながります。

◎暑い日が続きます。熱中症予防のために水分補給と休息をしっかりと取りましょう！

4 食味重視の穂肥で全量出荷基準（玄米タンパク値基準）達成！

○ 10葉期の生育診断《裏面図を参照》

① 適正域

【㎡あたり茎数が 600 本/㎡以下、葉色が 39 以下の場合】

→ 出穂 30 日前に **窒素成分 1.5 kg/10a**

② 生育やや過剰・葉色やや濃い

【㎡あたり茎数が 600～650 本/㎡、または葉色が 39～41 の場合】

→ 出穂 30 日前に **窒素成分で 1.0 kg/10a 以下**

③ 生育過剰・葉色濃い

【㎡あたり茎数が 650 本/㎡以上、または葉色が 41 以上の場合】

→ 出穂 25 日前頃まで葉色が低下したら、窒素成分で 1.0 kg/10a 施用
葉色が低下しない場合は追肥を行わない。

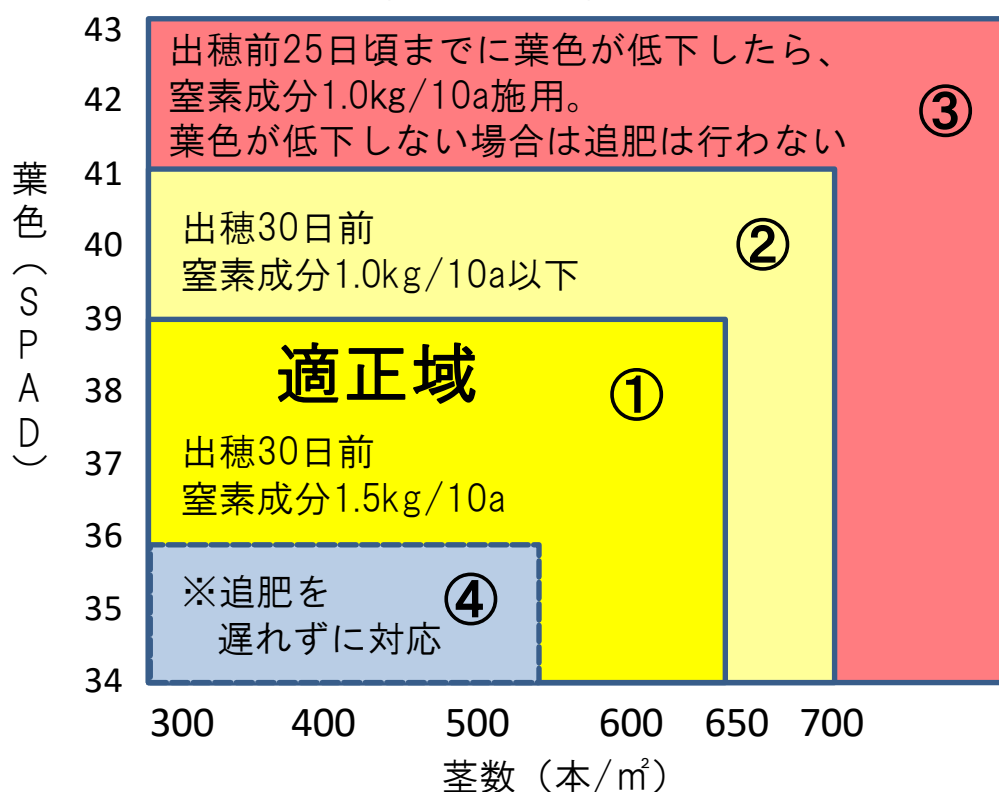
④ 生育量小さい・葉色薄い

【㎡あたり茎数が 500 本/㎡以下、かつ葉色が 36 以下の場合】

→ 出穂 30 日前まで、**窒素成分で 1.5 kg/10a 以下**

※追肥量を多くすると
消化しきれずにタンパクが高まる！

【10葉期の生育診断】



今年の出穂予想：8/6～7頃→追肥時期の目安7/7～8頃
追肥時期が遅れると、玄米粗タンパク含有率が高まり、食味が低下する恐れあり。
生育診断に基づき、遅れずに追肥を実施しましょう！

高温で経過し、イネ消耗・根張りが悪く、葉色も薄い傾向にあります。
しっかり稲を観察し、圃場に応じた穂肥対応、水管理を行いましょう。